

# 復旧・復興、自分たち高校生が引っ張っていく！

## 被災地の高校生 10人とフォーラムで意見交換

コープとうきょうや岩手県生協連が支援を行っている※、軽食付き自習スペース「山田町ゾンタハウス『おらーほ』」(岩手県山田町)。そこに通う高校生が、支援者と意見交換をする「子どもたちと一緒に考える被災地の復興支援の今後」(主催：東日本大震災子ども支援ネットワーク、以下ネットワーク)が1月13日に東洋大学白山スカイホール(東京都文京区)にて行なわれました。

※8ページをご覧ください。



支援者と意見交換をする校生たち。

### ●高校生が支援に関して意見を表明

会場には被災地の高校生10人(岩手県山田町6人、宮城県南三陸町4人)と、現地を支援する団体など計150人が集まりました。

東日本大震災から間もなく3年目を迎えますが、ほとんどの復興計画に中高生への支援は入っていません。ネットワーク事務局長の森田明美さん(東洋大学教授)は、「子ども支援と大人支援の両輪がうまくまわってこそその復興」と言います。

今回招かれた子どもたちは、軽食付き中高生自習スペース「山田町ゾンタハウス『おらーほ』」に通う高校生と、南三陸町で被災した戸倉中学を卒業した高校生です。この自習スペースの運営を森田教授が理事長を務める「NPO子ども福祉研究所」が、また戸倉中学の生徒には「NPOキッズドア」が学習支援を行ってきました。

フォーラムでは、子どもたちから、「家族の収入が安定しない中で、進学をあきらめる子もいる」などの現状報告と、「新しいものを作る『復興』ばかりを追い求めず『復旧』に力を入れてほしい」、「若い人も街づくり

に関われるようにしてほしい」、「水産業の復興ばかりに力が入られるが、農業や酪農などの整備も急いでほしい」といった意見が出されました。また、自習スペース設置期間に制限があることについては、「復興にあたって必要な場所。継続してほしい」という声が多く上がりました。

参加した高校生からは、「子どもという立場で意見を言っても無駄だと思っていたけれど、そうではないことが分かった」、「復旧、復興を自分たちが引っ張っていきたい」などの感想が出されました。

森田教授は、「この声を次につなげるために『大人の覚悟』と『子どもと大人が協働するプロセス』が大切」と話しフォーラムを締めました。

### ●コープとうきょうを訪問

フォーラム前日の1月12日には、ゾンタハウスの高校生がコープとうきょう本部(東京都中野区)を訪れ、ゾンタハウスを立ち上げ当初から支援している東洋大学の大学生や組合員たちと交流会を行ないました。

コープとうきょうは、もともと「たべる\*たいせつキッズクラブ」と

いった組合員活動を中心に森田教授と連携をしており、そのつながりからゾンタハウスに軽食支援を行ったり、大型ガスエアコンを寄贈するなどの支援を行ってきました。コープとうきょうの大矢 憲二さんは、「子どもたちと交流し、組合員から預かった募金がきちんと子どもたちのために役立っていることが実感できました。また、『いつも応援している』というメッセージも直接伝えることができ、良い機会となりました」と話していました。



コープとうきょうの組合員より、高校生へ写真のプレゼント。撮った写真をその場で加工、印刷して高校生に渡しました。



関連記事：本誌22号で、山田町ゾンタハウスについて紹介しています。